

I N V E S T O R S ' G U I D E

ゼネラルパッカー通信

2019年7月期(第58期)

2018年8月1日→2019年7月31日



世界の品質を
“包装”で守る

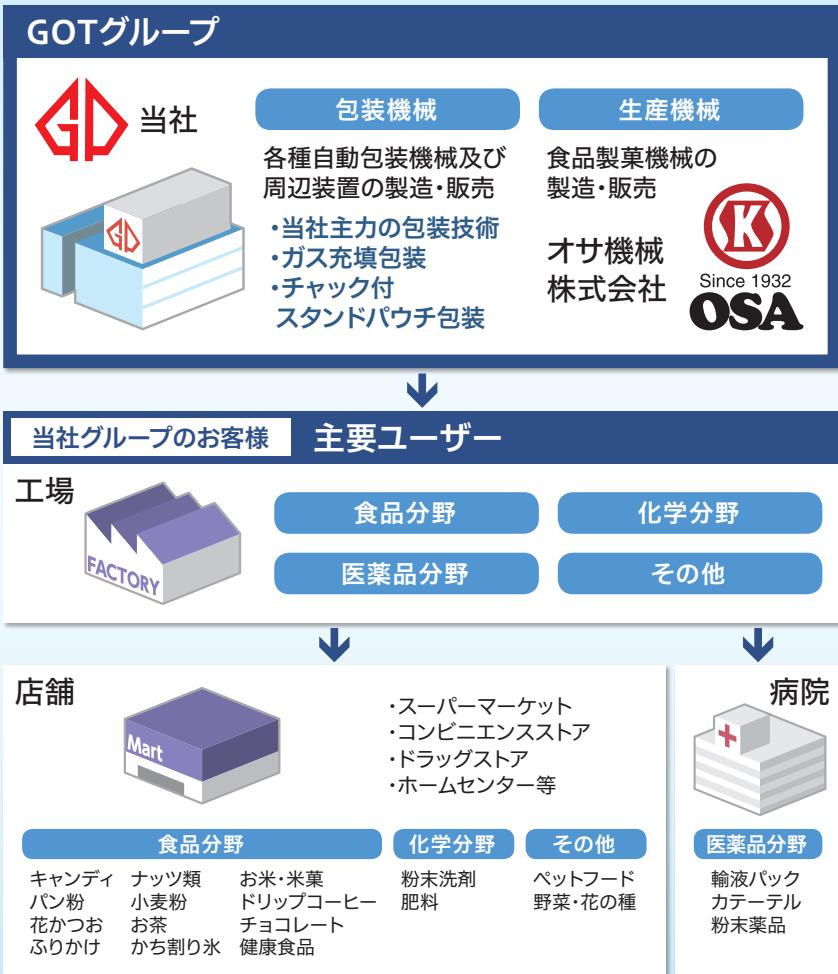


包装システムのトータルプランナー
 **ゼネラルパッカー株式会社**
証券コード 6267

社 是 **創造と挑戦** — 感ずる、信ずる、行動する —

経営理念 わが社はずねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。



魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち1/3が開発部および技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野でトップシェア。

魅力4 新規分野・海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外マーケットでの成長を続けています。

魅力5 安定した株主還元

DOE2%以上の安定配当を続けています。

第5次中期経営計画

中期経営ビジョン

- 1 世界に選ばれ、信頼されるGPグループ
- 2 オープンイノベーションで応えるソリューションカンパニー
- 3 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

基本戦略

さらなる成長に向けて海外事業の拡大を目指す

- 1 包装機械と生産機械の事業連携により、国内市場で安定的な収益と成長を確保する
- 2 販売体制を強化し、海外市場向け売上高比率20%以上を目指す
- 3 世界の包装ニーズにワンストップで応え、ソリューションビジネスのさらなる拡大を図る
- 4 メカトロハイスpekク包装機シリーズの商品開発を強化する
- 5 生産機械から包装機械まで一貫したシステムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- 6 開発力強化と事業領域拡大のためのアライアンスを推進する

経営目標

	2020.7期目標
売上高経常利益率	6.0%以上
ROA(総資産経常利益率)	6.0%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	10.0%以上

経営目標

	2020.7期目標
売上高	8,900 百万円
経常利益	600 百万円
当期純利益	420 百万円

国内外の好調な需要を背景に、
売上高、経常利益ともに**過去最高を達成。**
国内市場の安定収益と
海外市場での拡販に取り組み
 さらなる成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
 ここに当社第58期(2018年8月1日から2019年7月31日まで)の営業状況をご報告させていただきます。
 ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 **牧野 研二**

により機械受注高、機械受注残高ともに前期に比べ大幅な増加となりました。

食品機械業界の事業環境は、国内の需要は横ばい傾向となっていますが、製パン・製菓機械においては、2019年上半期において前年同期比12.7%減となっており、減少基調となっています。

当社の生産機械の業績においては、大型プラントの実績が増加したことに加え、保守消耗部品も増収となったことにより、売上高は前期比461百万円の増加となりました。受注動向に関しましては、大型プラントの実績減少により機械受注高、機械受注残高ともに前期に比べ減少となり

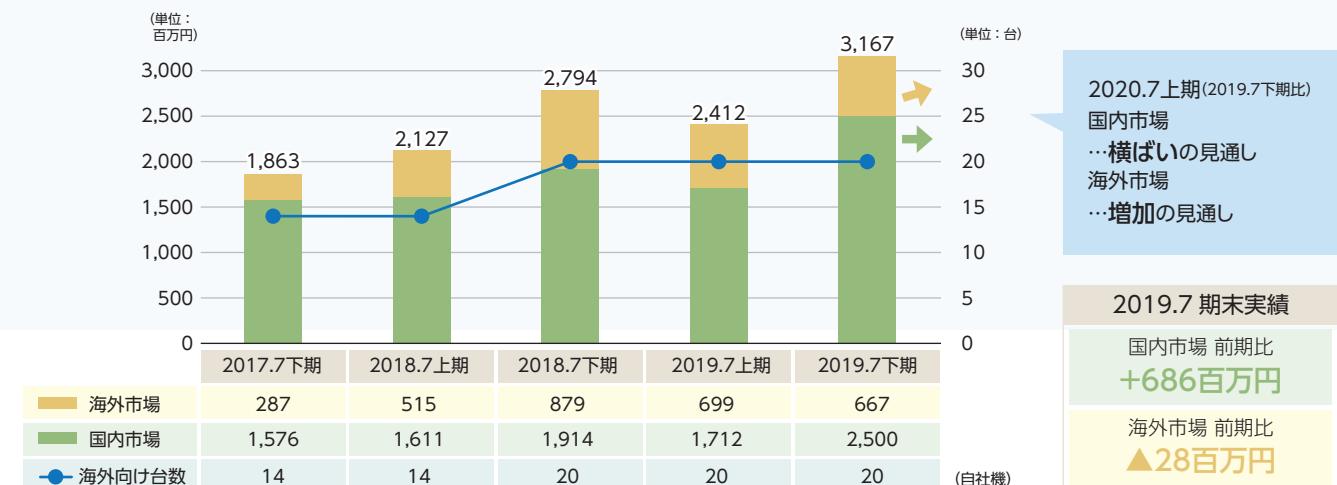
■ **当期の事業環境と営業活動の成果**

包装機械業界の事業環境は、国内の需要は好調に推移しているとともに、輸出もアジアとヨーロッパ向けが好調に推移しています。品目分類においては、当社の主要対象市場である製袋充てん機の生産金額が2019年上半期において前年同期比0.1%増と微増ではありますが、依然として高水準が続いています。(経済産業省 生産動態統計より)

当社の包装機械の業績においては、売上高は高価格機種の販売台数が増加したこと等により、前期比765百万円の増加となりました。また、国内市場で高額案件の受注増加

【包装機械】 国内・海外市場別機械売上高 (エンドユーザー市場)

(注)保守消耗部品売上高除く



ましたが、2020年上期の受注に関しましては、高額案件の件数増加を目指していきます。

■ **第5次中期経営計画の2年目の成果**

第5次中期経営計画(2018年7月期～2020年7月期)は、「さらなる成長に向けて海外事業の拡大を目指す」を基本戦略に掲げています。また、3年間の計画期間を「連結グループの基礎固めから成長基盤構築の時期」と位置付け、連結決算での利益率の向上と収益の拡大を図ることに取り組んでおります。

2019年7月期の実績は、国内市場において、安定的な収益と成長の確保に取り組んでおり、主力機種としてメカトロハイスpek包装機の拡販に注力した結果、包装機械の売上高は前期に比べ大きく伸張するとともに、自社包装機の受注においても前期を大きく上回りました。今後のさらなる

拡販に向けて、オプション機能の追加を図るとともに、新機種の投入を計画しております。

海外市場においては、販売台数は増加したものの、大型案件の実績減少により売上高は減少となりました。中国子会社の売上高は前期を下回りましたが、生産・アフターサービス体制の確立に取り組んでおり、2020年7月期においては売上高は増加する見込みです。また、海外市場全体の売上高についても、新規開発機種投入により大幅に増加する見込みです。販売体制の強化につきましても、中国とタイに新規代理店を追加するなど、新たな顧客の獲得を進めてまいります。

第5次中期経営計画の数値目標につきましては、当初の予定として2020年7月期において売上高7,700百万円、経常利益475百万円、親会社株主に帰属する当期純利益320百万円を設定しておりましたが、今期において過去最高

の売上高、経常利益を達成したことにより、この中期数値目標を上回りました。そのため、上方修正を行っております。

第59期の見通し

第5次中期経営計画の最終年度となる2020年7月期の業績見通しについては、売上高8,900百万円(当期比6.9%増)、営業利益598百万円(19.2%減)、経常利益600百万円(19.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益420百万円(19.9%減)を予想しています。増収の要因としましては、大型プラント案件の減少により生産機械は減収となりますが、包装機械の海外市場における大幅な増収により、全体として前期比570百万円の増加を見込んでいます。一方、減収の要因としましては、包装機械の新規開発機種投入による低採算案件の増加などにより営業利益率が低下する

ため、営業利益は前期比142百万円の減益となる見通しです。

株主の皆様へのメッセージ

2019年7月期は、計画よりも増益となったことから、期末配当は、配当予想より5円増配して30円とさせていただきます。2020年7月期は、減益予想により、年間で50円を予定しております。

当社は食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向 30%または連結純資産配当率(DOE) 2% を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率(DOE)



特集

FOOMA JAPAN 2019にて「高機能給袋自動包装機 チョコレート包装」を出品!

2019年7月9日から12日まで、東京ビッグサイトにて「FOOMA JAPAN 2019」が開催されました。この展示会では、GP-M3000UST型と計量機連動仕様にて、チョコレート包装のデモンストレーションを実施。グループ会社であるオサ機械株式会社のチョコレート製造機も展示し、チョコレートの製造から包装までのトータルプランニングを来場者にアピールしました。



グループ会社 オサ機械株式会社も共同出展

操作性が向上した最新チョコレート製造機を中心に展示

オサ機械株式会社では、新機種「コーティングパン COROPA」をメインに展示。この新機種は、工具不要で簡単に取り外しができるパンやシンプルボタンなどの機能を備え、少ない操作で感覚的に扱えるのが特長です。

TOPICS

中国での販売力強化のため上海事務所を支店へ昇格

当社では海外分野の成長を目指し、特に今後も成長が見込めるマーケットとして中国に注目しています。2019年3月に上海事務所を支店へと昇格させ、営業活動を本格化させていきます。



会社案内をリニューアル オサ機械株式会社とのシナジーを意識

2019年7月に、デザインも新たに会社案内をリニューアルしました。オサ機械株式会社とのシナジー効果を伝えるため、包装機に加えてチョコレート製造機についても掲載。連携をより深め、GOTグループとしての成長を目指していきます。



経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費の持ち直しの動きや雇用情勢の着実な改善が見られ、企業収益は高い水準で底堅く推移するなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは海外事業の拡大、グループ会社間の事業連携強化、生産力の強化に取り組んでまいりました。

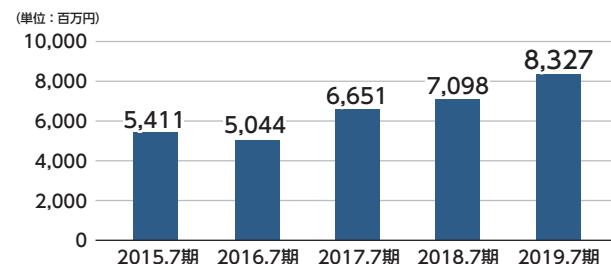
当連結会計年度における売上高は、顧客企業の設備投資需要の増加等により包装機械事業・生産機械事業ともに好調に推移した結果、前連結会計年度に比べ1,229百万円

の増収となり、2期連続の増収となりました。利益につきましては、増収の効果及び包装機械事業における売上総利益率の改善により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前連結会計年度に比べ大幅な増益となり、過去最高益を達成いたしました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

包装機械事業は、売上高は6,929百万円、営業利益は683百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は1,398百万円、営業利益は57百万円となりました。

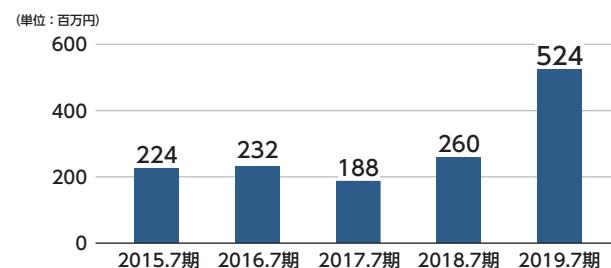
売上高



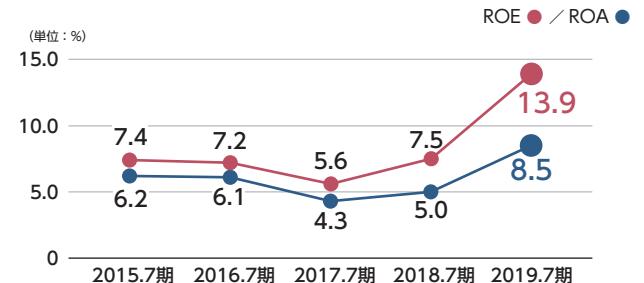
経常利益 / 売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益

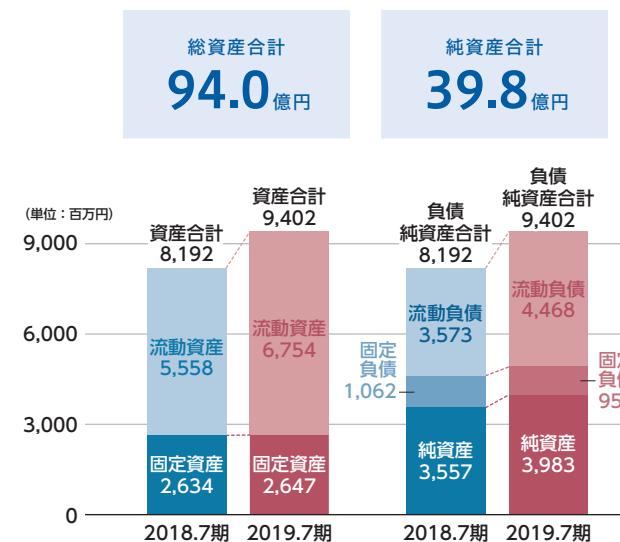


ROE / ROA

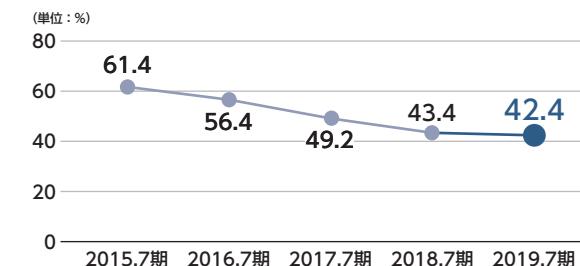


(注)2016年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。そのため、2016年7月期までは単体、2017年7月期以降は連結決算となっております。

財務状況



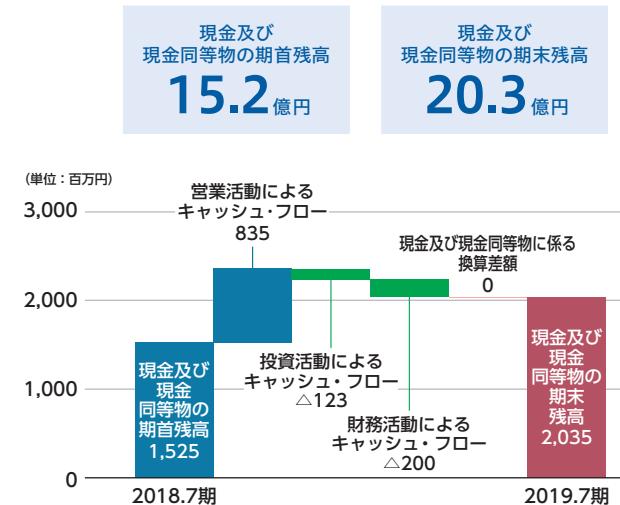
自己資本比率



財務分析

当連結会計年度における資産合計の増加した主たる要因は、現金及び預金が509百万円、棚卸資産が415百万円増加したこと等によります。負債合計の増加した主たる要因は、前受金が429百万円、仕入債務が186百万円、それぞれ増加したこと等によります。純資産合計の増加した主たる要因は、利益剰余金が436百万円増加したこと等によります。

キャッシュ・フローの推移



キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は835百万円(前期比132.2%増)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益744百万円、前受金の増加額430百万円、仕入債務の増加額187百万円等であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額416百万円、売上債権の増加額201百万円等であります。投資活動の結果使用した資金は123百万円(前期は63百万円の獲得)となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出108百万円、無形固定資産の取得による支出12百万円等であります。

包装機械



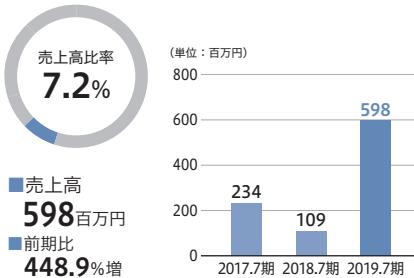
包装機械事業におきましては、国内市場での製袋自動包装機及び給袋自動包装機の販売台数の増加等から、売上高は6,929百万円(前期比12.4%増)、営業利益は683百万円(前期比92.6%増)となりました。



給袋自動包装機(ガス充填自動包装機含む)



製袋自動包装機



包装関連機器等



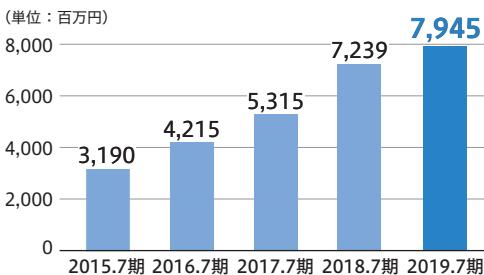
生産機械



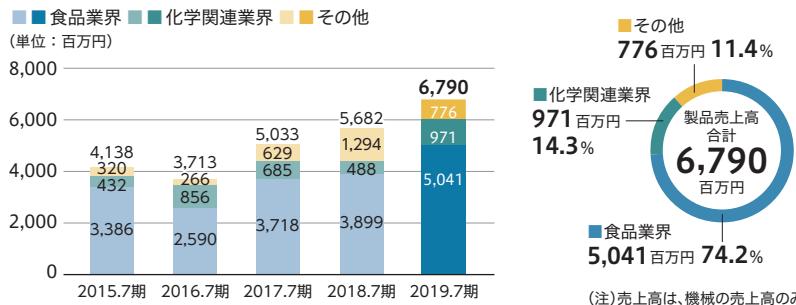
生産機械事業におきましては、大型プラント案件の実績が増加したこと等から、売上高は1,398百万円(前期比49.3%増)、営業利益は57百万円(前期比244.4%増)となりました。



機械受注高



最終ユーザー業界別売上高

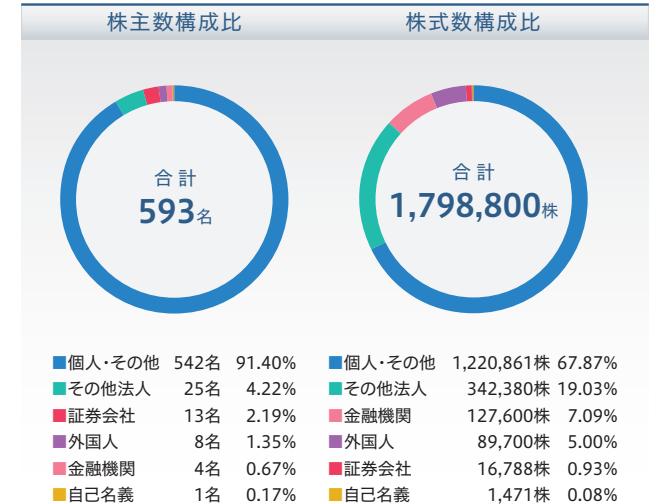


会社概要 (2019年7月31日現在)	
商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	1966年2月(創業1961年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従業員数	187名(連結) 155名(単体)
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893
子会社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司

役員 (2019年10月25日現在)	
代表取締役社長	牧野 研二
取締役副社長	小関 幸太郎 (オサ機械株) 代表取締役
常務取締役	鈴木 完繁 (オサ機械株) 代表取締役社長
取締役	尾関 津義 (蘇州日技通用包装机械有限公司) 董事長
取締役	水野 智之 (オサ機械株) 取締役
社外取締役(監査等委員)	福井 義雄
社外取締役(監査等委員)	村橋 泰志
社外取締役(監査等委員)	浅井 一郎
社外取締役(監査等委員)	森田 卓寿

株式の状況 (2019年7月31日現在)	
発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	593名

大株主 (2019年7月31日現在)		
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社FAMS	270,000	15.03
ゼネラルパッカー従業員持株会	242,500	13.49
MSIP CLIENT SECURITIES	86,400	4.80
ゼネラルパッカー取引先持株会	82,000	4.56
株式会社りそな銀行	78,400	4.36
高野 季久美	77,800	4.33
田中 かな	77,800	4.33
梅森 輝信	53,700	2.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	48,200	2.68
島末 孝法	39,200	2.18



ホームページをリニューアルしました!

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

▼トップページ



▼IRページ



企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

8年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

個人投資家の皆さまへ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。

<http://www.general-packer.co.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日
	期末配当金 7月31日
	中間配当金 1月31日
	その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222

東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F
Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893

同事務取扱場所

〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社 本店

お問い合わせ先

〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法

電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL

<http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

